

特集 2016年日本映画総括

「シネマ游人」が選んだ日本映画ベストワン

- 作品賞 『淵に立つ』
- 監督賞 深田晃司 『淵に立つ』
- 主演男優賞 古館寛治 『淵に立つ』
- 主演女優賞 筒井真理子 『淵に立つ』
- 助演男優賞 リリー・フランキー 『二重生活、聖の青春、他』
- 助演女優賞 Cocco 『リップヴァンウィンクルの花嫁』
- 新人賞 杉咲 花 『湯を沸かすほどの熱い愛』
- 特別賞 『この世界の片隅に』（アニメ作品）
監督・片淵須直 声の出演・のん

※次ページ シネマ游人日本映画賞ノミネイトより選出

【総括】

2016年はアニメと特撮作品が映画界を席捲した年だった。何故、普通の実写作品が勝負出来なかったのか？素朴な疑問である。これは生身の人間が演じるドラマの敗北を意味しないか。

さて、そんな中で、シネマ游人はベストワンに『淵に立つ』を選んだ。監督の深田晃司は、ブレヒト劇に造詣があるだけ

に、不条理な人間の世界を見事に映像化している。それを、同じ舞台仲間の役者、古館寛治や筒井真理子らが、あうんの呼吸で受け止めている。『シン・ゴジラ』は原発事故後のタイムリーな作品で発想が新鮮。『リップヴァンウィンクル』はネット社会に生きる人間の孤独と、現代社会の矛盾を鋭く炙り出している。今までの岩井作品で一番わかりやすい。そのほかに、他人の生活を覗き見る斬新な映像『二重生活』、粗削りだがこれからの映画を予感させる『溺れるナイフ』、西川監督自身を投影させたと思わせる作品『永い言い訳』等が印象に残った。

個人賞は、主演賞に前述の2人。助演賞では昨今の日本映画に欠かせない存在になったリリー・フランキー、影を持つ孤独な女を見事に演じたCocco『リップく花嫁』が、抜きんできていた。また、他に竹原ピストル『永い言い訳』や佐津川愛美『ヒメアノール』が、傍役として、その存在がいかにドラマを膨らませるか見せてくれた。新人としては、どちらも美形ではないが、杉咲花『湯を沸かすほどの愛』や門脇麦『二重生活』の活躍が光った。息の長い女優になる予感がする。

後回しになったが、アニメ作品『この世界の片隅に』は、庶民の視点で見た戦争が丁寧に描き出されていて好感ももてた。監督、声の出演者も含め、当シネマ游人の評価は高く、今回は別枠で特別賞とした。

シネマ游人ノミネイト

シネマ游人は、下記の方々にお願ひし、2016年の日本映画のベスト3を選んでいただいた。この中から編集部でベストワンを選ぶと共に、東京スポーツへ、ノミネイトとして提出した。

作品賞

『淵に立つ』

『シン・ゴジラ』

『リップヴァンウィンクルの花嫁』

監督賞

深田晃司 『淵に立つ』

庵野秀明 『シン・ゴジラ』

岩井俊二 『リップヴァンウィンクルの花嫁』

主演男優賞

古館寛治 『淵に立つ』

阿部寛 『海よりもまだ深く』『エヴェレスト〜山嶺』

綾野剛 『リップヴァンウィンクルの花嫁』

主演女優賞

筒井真理子 『淵に立つ』

黒木華 『リップヴァンウィンクルの花嫁』

宮沢りえ 『湯を沸かすほどの熱い愛』

助演男優賞

リリー・フランキー 『SCOOP』『二重生活』他

竹原ピストル 『永い言い訳』

菅田将暉 『ピンクとグレー』『溺れるナイフ』他

助演女優賞

Coco 『リップヴァンウィンクルの花嫁』

新人賞

佐津川愛美 『ヒメアノール』『だれかの木琴』

宮崎あおい 『怒り』『バスデーカード』

杉咲花 『湯を沸かすほどの熱い愛』

小松菜奈 『ディストラクションベビーズ』『溺れるナイフ』

土屋太鳳 『Orange オレンジ』

【ノミネイト依頼者】

井上静夫 同人誌主宰

太田義幸 通りすがりの映画好き

木村直史 三重映画フェスティバル

田中 忍 三重映画フェスティバル会長

東郷勇次 専業主夫

西松 優 日本映画研究者

橋本真由美 謎の美女

水野圭次郎 菰野ふるさと映画塾OB

森松千恵 三重映画フェスティバル

吉水英人 四日市市文化会館副館長

【スタッフ】

中村藤生

林 久登

堀川慶治

森 次男

村上 暁

2016年日本映画受賞一覧

東京スポーツ映画大賞

作品賞 『この世界の片隅に』

監督賞 片淵須直『この世界の片隅に』

庵野秀明『シン・ゴジラ』

主演男優賞 三浦友和『葛城事件』

主演女優賞 宮沢りえ『湯を沸かすほどの熱い愛』

助演男優賞 綾野剛『怒り』

菅田将暉『ディストラクションベイベーズ』他

助演女優賞 広瀬すず『怒り』

新人賞 杉咲花『湯を沸かすほどの熱い愛』

東京スポーツ映画大賞とは

「シネマ游人」は、東京ポ映画賞のノミネイト委員になっている。毎年、その年一年間の優秀作品、俳優を、各3位までノミネイトし、東京スポーツに提出。全国10の映画祭が選んだ対象と合わせ、審査委員長のビート・たけしにより大賞を決定している。選出方法が他と違って合議制でなく、たけしの好みに左右されるエンターテイメント色の濃い映画賞である。

キネマ旬報賞

作品賞 ① 『この世界の片隅に』

② 『シン・ゴジラ』

③ 『淵に立つ』

監督賞 片淵須直

主演男優賞 柳楽優弥

主演女優賞 宮沢りえ

助演男優賞 竹原ピストル

助演女優賞 杉咲花

新人賞 小松菜奈、村上虹郎

毎日映画コンクール

日本映画大賞 『シン・ゴジラ』

日本映画優秀賞 『この世界の片隅に』

監督賞 西川美和

主演男優賞 本木雅弘

主演女優賞 筒井真理子

助演男優賞 香川照之

助演女優賞 市川実日子

新人賞 毎熊克哉、中条あやみ

報知映画賞

作品賞 『湯を沸かすほどの熱い愛』

監督賞 李相日

主演男優賞 三浦友和

主演女優賞 宮沢りえ

助演男優賞 綾野剛

助演女優賞 杉咲花

新人賞 中野量太（監督）

ヨコハマ映画祭

作品賞 ① 『この世界の片隅に』

② 『湯を沸かすほどの熱い愛』

③ 『ディストラクションベイベーズ』

監督賞 中野量太

主演男優賞 三浦友和、柳楽優弥

主演女優賞 筒井真理子

助演男優賞 菅田将暉

助演女優賞 杉咲花

新人賞 太賀、小松菜奈、村上虹郎

特別大賞 庵野秀明

映画芸術

ベスト3作品 ① 『この世界の片隅に』

② 『聖の青春』

③ 『ディストラクションベイベーズ』

東京スポーツ映画大賞

授賞式に出席して

森 スタッフ

日時・2月26日

会場・東京港区グランドプリンスホテル

今年会場が港区のプリンスホテルに代わった。私はちよつとふざけて、いつものマジックショウの時に使う衣装、タキシードで、蝶ネクタイ、帽子に着替えて出席した。すると、受付嬢たちが、「誰？誰？誰？」と戸惑っている。招待状を渡しているのにねえ。おかげで、別室に通され少しの間、手厚い接待を受けた。

さて、会場の中は開演前から熱気に溢れていた。ビートたけし審査委員長が登壇すると割れんばかりの拍手で熱気は最高潮に達した。今回は、都合で来られない受賞者がいる中で、遅れてでもスケジュールを調整して式に臨んだ主演男優賞の三浦友和、主演女優賞の宮沢りえ、そして、エンターテインメント賞のカムバック&奨励賞のベッキーらを迎え、たけし委員長は上機嫌だった。三浦友和は北海道ロケの途中に東京に戻り、翌日、再び現地に戻るといふ強行出席だ。また、『アウトレイジ』の汚れ役があつての受賞であることも明かされた。



会場入口にて

宮沢りえは、東京芸術劇場プレイハウスの公演を終え、美しい着物姿で登壇した。その姿を見てたけしは「見事に女優として輝いている。カメラの前で磨かれている人は違うね」と頬を緩めながら最大級の賛辞を贈った。

またベッキーに対しては「ベッキーはかっこいいよ。妙な隠し事はしないし、好きになっただから、しょうがないと思っている。正直でいいよな」と絶賛し、一連の騒動に終結宣言。これに対してベッキーも「こんなポジティブな賞をいただける人間ではないのに、ありがたい」と感謝しきりだった。そして、委員長が、「この映画祭を大きくするためには、たけしという名前をもっと高めていかないといけない。役者さんや芸人が東京スポーツ映画大賞にノミネートされたり、受賞できることが夢になるように頑張りたい」と締めくくると、会場から大きな拍手が送られた。

表彰式風景



菅田将暉と筆者



たけしと宮沢りえ



受賞者